

特別寄稿

Apa & siapa

パソナ国際交流プログラム 2015 のインターン生

=前列左から2人目が筆者

世界は広い

ヌサ・マハルディカ

(日本語日本文化教育センターに在籍)

日本語に「遼東之豕(りょうとう・の・いのこ)」という故事成語があります。インドネシア語に翻訳しますと、視野が狭くて広い世界を知らないため、自らを一番偉いと思い込んでいる人、大体そんな意味になります。ちょっとお恥ずかしい話ですが、この言葉は、日本に来る前の私の状況を指して言っているような気がしています。小学生の頃からずっと成績はトップクラス。同僚たちの間でも一目置かれ、自分でもまあまあ誇れる卒業成績指数(IPK)を得て、ジャカルタの国立教育機関に通えることが出来たのです。

インドネシアの大学の日本語科では、しばしば日本企業との共同活動があります。企業側が日本への派遣希望学生を探し、学生は1~2カ月間インターン生として企業で働くことになるのです。私の日本語能力はそこそこのレベルにあるという自負から、学内で募集されたインターンシップに手続きさせていただきました。

日本に来てからは、全てが私の思い描いて通りに順調というわけではありませんでした。職場でかつて学んだことのないような特殊な専門用語をたくさん耳に



して面食らいました。そのうえ、インターン学生の中にはすごく頭脳明晰で、はるかに日本語の優秀な人もいました。私など及びもつきません。ほんとに“小さい”存在なのです。

その後、神のおかげで、昨年9月に日本政府の奨学金を受け大阪大学の日本語科に籍を置いて学べる機会を得ることが出来ました。ここで私はまた、いろいろな国から来た優秀な素晴らしい学生たちと出会いまし



ジャパナビジネスインターン
シップ2014(後列左から2人目)



た。そして、インドネシア語に熟達した大阪大学のインドネシア語専攻学生とも友だちになりました。インドネシア人の私よりもっとすごくインドネシア語に熟達しているのです。

この世界は実に広いのだと私に気づかせてくれた、遠く離れていたさまざまな同年輩の学生たち、その人たちとの全ての出会いをじっくり振り返ってみますと、素晴らしい人たちがいっぱいいたのだと実感します。私がもう到達したと満足していたのは、明らかに早まった速断でした。

結論を言います。私は神が日本語に引き合わせてくれたこと、そして日本に滞在させていただいたことに、本当に感謝しています。おかげで、私はまだ経験していないことでも対処できます。さまざまな国の人たちと会って、彼らの経験から学ぶことができます。そして貴重な教訓を忘れてはなりません。それは、常に学び、常に謙虚であり、「遼東之豕」にならない、ということです。